

1. 評価結果概要表

作成日 2009年3月17日

【評価実施概要】

事業所番号	0873900716		
法人名	株式会社 いっしん		
事業所名	グループホームいっしん館 こまち		
所在地	茨城県土浦市藤沢894-1 (電話) 029-830-6000		
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市元石川町2523-3		
訪問調査日	平成21年3月9日	評価確定日	平成21年5月20日

【情報提供票より】(平成 21年 1月 25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 1月 24日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 13人, 非常勤 3人, 常勤換算 13.8 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	20,500 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1100円	

(4) 利用者の概要(1月25日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	9名	要介護4	5名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 80歳	最低	68歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	八千代病院・ストレスケアつくばクリニック・長谷川歯科医院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

見晴らしがよく、また近隣の学校の様子が見え、立地条件は抜群に良い。また同法人の特徴としては、グループホームを10以上経営されており、その利点を活かし、法人内で毎月「館長会議」が行われ、情報交換することにより、ケアの充実を図っている。また、毎年各ホームからバスを連ね、参加総数100名以上の一泊旅行を実施、「いっしん館」の大きなイベントとして利用者、家族に喜ばれている。また外部評価結果を踏まえての検討も着実に行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	災害対策に関してこれまでは、年2回の避難訓練やマニュアルの整備に留まっていたが、評価結果を踏まえ、今年度は「入居者を交えての夜間想定訓練」を実施、また同法人内の「防災委員会」のメンバーが、日々、防災に関する職員の声を集めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員が分担し意見を出し合い検討、まとめている。管理者は日ごろから「外部評価はケアの質を高める為のもの」とその意義について職員に指導している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議の内容は常に管理者から職員へ伝達され、ケアの向上に活かされている。また、運営推進会議の参加者から、地域のイベントを教えていただき参加する機会も多い。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の要望を大切に、ケアの充実を図ることを念頭に日々取り組んでいる。苦情に関しては、記録保存はもちろんのこと、複雑な内容に関しては「本部」へ相談するなど、速やかに対応できるよう努力されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会の加入はされていないが、中学生の体験学習の受け入れや、多くのボランティアの受け入れなどがあり、最近では近隣の方から自家製の野菜を頂くなど、着実に地域との絆を深めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念の他に、職員の意見を取り入れた「年度目標」一日十笑を行動の目標として掲げるなど、理念を具体的な行動に反映できるよう工夫されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	いつでも確認できるよう、理念を掲示。新人マニュアルにも理念が組み込まれており、常に具体的な行動指針として、職員が理解し実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ボランティアは、踊り、ソバ打ち、将棋の相手など、多岐に渡る。そのボランティアの方が窓口となり、地域との交流が広がることもある。近隣の方から頂いた野菜のお礼に、ホームで外出したお土産をお返しする等、地域との暖かな交流が着実に拡大している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者だけでなく、職員で評価の分担、意見を出し合い、全体で自己評価の作成にあたっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の会議も定着し、参加者からケアの向上に向けた意見を頂くことも多くなった。		

茨城県 グループホームいっしん館こまち

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	GH連絡協議会にも行政の参加があり、困難ケースをテーマに取り上げた話し合いを行うなど、ケアの質の向上にむけて取り組んでいる。また、入居者に生保の方もいる為、市の担当者との情報交換の機会も多い。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発送のホーム便りは、居室担当のスタッフが手書きで書いている。面会の機会の少ないご家族に対しては、夏祭りや旅行のお知らせなどを通し、交流を図れるよう、努力されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見や要望は、職員会議でもテーマとして取り上げられ、職員の意見や提案を挙げて、最良の対応を検討し、ご家族へ答えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同法人内での職員の移動が実施されることもあるが、既存の職員から利用者一人ひとりに丁寧な説明を行い、ストレスにならないよう、細やかな声かけを心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部講師を招いて多彩な内容の研修実施。また今年から「新人研修」として、ビジネスマナーや介護技術などの研修が1週間にわたり実施されることになった。これは「新人の、不安を軽減したい」という「現場の声」を会社が取り上げ、実施の運びとなった。更に新人がステップアップできるスキルチェックリストもあり法人全体として職員教育に力を注いでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加、積極的に情報交換や交流を実施。今後は職員の交換研修も検討中。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者のバックグラウンドを把握し、馴染みの生活用品を持ち込んで頂いたり、顔なじみの既存の入居者がいれば、会話の橋渡しをする等、決め細やかに対応することで、利用者の混乱や不安を最小限にしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	得意とすることや、自分で出来ることはセルフケアでやって頂いている。職員が利用者から教えて頂くことも多く、それが双方の喜びにもつながっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の変化はスタッフの観察だけでなく、社会福祉協議会から毎月介護相談員の訪問があり、職員とはまた違った目線での「新しい気づき」を得ることもある。評価が難しいケースに関しては、同法人の他のグループホームに相談を持ちかけることもある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	小さな変化も記録に残すことで気がつくことも多い為、管理者からはヒヤリハットを含め、記録の重要性について指導している記録や新しい気づきをもとにカンファレンスが行われ、ケアの評価が行われている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しはもちろん、状態の変化に応じ見直しを実施。また、毎月行われる職員会議では、夜勤明けや休みのスタッフも参加し活発な意見交換が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所はグループホームの他、看護師常駐の有料老人ホーム、介護付き住宅を運営しており、利用者の身体状況や家族の要望に応じて柔軟に対応化可能であることを、家族に伝えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間毎に内科の往診があり、その他、一月に2回歯科の往診がある。家族の付き添いが難しい場合の他科受診は職員が付き添いをすることもある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に向けた方針については契約時に確認するほか、状態の変化に応じ往診時に家族に同席してもらい意向を確認してもらっている。話し合いの結果は申し送りノートに記録しミーティングで伝達、情報を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩ということを念頭におき対応している。個人情報の取り扱いについては契約時に承諾を得ている。職員採用時に守秘義務の契約を結んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望を可能な限り対応している。系列のGHで仕事をしたいと望む利用者を受け入れ支援している。		

茨城県 グループホームいっしん館こまち

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じ形態を工夫。ペースト食なども必ず味見をし、色取りなどにも気をつけている。嚥下機能が低下しても食事が楽しいものになるよう心配りを忘れないよう、管理者から職員に指導している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は大切なコミュニケーションの時間と捉え、利用者の思いを傾聴しながら気持ち良い入浴が出来るよう支援している。ケースによっては夜間入浴も出来るよう努力している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	伝統食・行事食の調理方法を利用者に関いたり、一緒につくったりしている。また、個々の趣味が行えるよう支援したり、定期的なレクリエーション・外出を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節感を感じてもらえるように日常的に散歩やドライブに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠していない。入居者一人ひとりの行動に注目し、安全に生活できるよう支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人として防災委員会があり防災に関する意見を集約している。消防署は消防法改定時に来て、指導してくれる。避難訓練では実際に119番通報し、夜間想定訓練を利用者交えて行っている。訓練では避難誘導の優先順位を決め、意識付けして行動できるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医や家族と相談して食事量を決め、摂取量を記録して状態の把握に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の手作り暖簾をかけたり、イベントの写真を掲示して話題づくりの工夫が見られる。天窓の吹き抜けには日差し防止のすだれをかける等の配慮もある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用品が持ち込めるようになっており、個々の生活空間をつくれるようになっている。		